





第Ⅲ章. まちづくりを進めるための提案

まちづくりの目標を達成するために以下の推進策を提案します。

(1) 市民のまちづくりに対する支援

魅力向上プロジェクトを実施する際に、市民が行う活動に対して支援する内容は以下のとおりです。

項目	概要	支援内容
建物修景への支援	<p>まちなみ修景のため、まちづくりルールを定めた地域(住民協定など)に支援を行う。</p> <p>(建物の外壁や屋根など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技術的サポート(建築士や造園士など専門家派遣) ・修景工事費用の補助 ・講習会の開催 
植栽修景への支援	<p>まちなみ修景のため、まちづくりルールを定めた(住民協定など)地域に支援を行う。</p> <p>(建物周りの植栽や工作物など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技術的サポート(建築士や造園士など専門家派遣) ・修景工事費用の補助 ・講習会の開催 
まちの活性化事業への支援	<p>まちづくり団体が行おうとする事業に対して支援を行う。</p> <p>(オープンカフェ、朝市、マルシェの出店など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テントなどの道具の貸出 ・運営資金の補助 ・ノウハウの講習会 ・場所の提供 
商業・観光・産業への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・飯山モデルの商品開発・起業・テナントミックスやIT活用などの商業・観光活動に対する支援を行う。 ・特産物や農産物の第6次産業開発などに対する支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術的サポート(デザイナーや専門家派遣) ・商品化への資金補助 ・店舗改修費用の補助 ・起業に対する補助 
その他の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・その他まちづくりに係る活動に対して支援を行う。 ・「楽しむ」「味わう」ためのまちづくりに対して支援を行う。(まちづくり社会実験・まちづくり研究活動など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術的サポート(専門家派遣) ・活動資金補助

(2) エリアマネジメント(計画・整備から活動・管理まで)の定着化

継続的にまちづくりを進めるため以下のようなしくみを提案します。

- 市民(住民)・組織・企業・団体・研究機関(大学など)・専門家・行政のプラットフォームによる横断的な連携と協議の場づくり
- まちづくりコーディネーターの起用
- 地域のまちづくりリーダーの育成
- 地域に根差すまちづくりルールの作成(後世へ受け継がれるまちづくりのために)
- 地域の賑わい創出のための企画・立案・運営
- 公共施設の維持管理などの里親制度の導入

一貫した考えのもとでエリアの質の向上を図る(エリアマネジメント)の流れイメージ

※まちを継続的に維持するには「まちづくりのルール」と「マネジメントする人」が必要

①計画(考える)



協議の場(プラットフォーム)の醸成

②整備(つくる)



まちなみ修景整備

③活動(つかう)



通りの賑わい創出

④維持管理(守る・磨く)



住民による維持活動

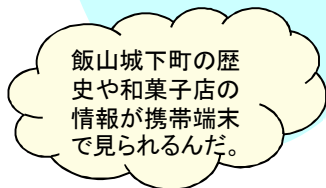
(3) 情報提供のツール開発と案内人の育成と拡大

■ 飯山らしいデザイン化されたツールによる情報提供(市民・来訪者が共有できるもの)と誰でも案内人になれる人材育成と人材拡大

デザイン化されたツールで情報提供のイメージ



- ・まちなかサインのデザイン統一
- ・IT(携帯電話など)を活用したまちなか案内
- ・読みやすいパンフレットデザイン



誰でも案内ができる人材育成と拡大のイメージ

<育成>

- ・講習会を開催(行政・団体主催)
- ・ふるさと検定の受験と認定書発行
- ・分野別案内人の育成

<拡大>

- ・おせっかい案内人登録(どちらかというと地域に根差した方)
- ・まちなか案内マイスター制度(登録・認定・伝承)
- ・登録者には特典がある。

【先進事例:長崎さるく】



“さるく”とはぶらぶら歩くという長崎弁。観光者のニーズによってまちなか観光の仕方が色々用意されている。

- ① マップを片手に自由に歩く「長崎遊さるく」コース別にマップが多数用意されている。
- ② 長崎名物・さるくガイド(市民ガイド)といっしょにまちなかを歩く「長崎通さるく」
- ③ 専門家の講座や体験を通して探求する「長崎学さるく」

(4) 推進のための課題

■ 地域住民との連携

- ☑まちづくりを実現するには、地域住民の方や関係団体等多岐にわたる人々の力が必要である。提案した推進エリアの関係者と話し合いを進め、着実にまちづくりを進めることが必要である。

■ 修景を進める上での課題

- ☑飯山らしいまちなみ創出のためには、修景ガイドライン等を作成し、事業を促進することが重要であるが、そのためには各分野の専門家スタッフと修景に対する支援制度が必要である。

(例えば、ガイドラインは、建物の色調、形状、壁面後退、植栽の種類、しつらえ方などを示す。)

■ 歴史的素材の活用の課題

- ☑歴史を持った資源は、新たにつくられたものでは醸し出せない良さがある。ただしハード整備だけではその価値を伝える事はできない。ストーリー性をもったソフトとハードの両方を整えたうえで歴史的素材を有効的に活用することが必要である。

(例えば、蒸気機関車、土蔵、樹木など)

(5) 全体の推進スケジュール

地元関係者との調整が必要となるが、基本的には新幹線開業を短期整備として達成可能なところから進めることとします。

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度 新幹線飯山駅開業 (H26年度末)	平成27年度
魅力向上プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり補助制度創設 ・修景モデル事業実施 		<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり補助実施 ・賑わい経済活性化支援 ・まちなかサイン設置 ・まち“庭”整備 ・歴史と文化を伝える仕掛け整備 		<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり補助実施 ・まち“庭”整備
5つの推進エリアの実施時期(目安)					
関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・飯山城跡公園整備計画 ・(仮称)飯山ぶらざ基本設計 ・雪と寺のまち公園整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・飯山城跡公園整備 ・(仮称)飯山ぶらざ実施設計 ・仁王門整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・飯山城跡公園整備 ・(仮称)飯山ぶらざ建設 	<ul style="list-style-type: none"> ・飯山城跡公園整備 ・(仮称)飯山ぶらざ建設 	<ul style="list-style-type: none"> ・飯山城跡公園開園 ・(仮称)飯山ぶらざ開館

— あとがき —

まちには、心地よい空間と心地よい人間関係があって、

それをコンセプトといくつかの要素によって組みあわせる事によって、

まち全体の良さ(価値)の増大につながる。

住まう人は誇りに思い、来訪者は魅了される。

飯山は四季が明快である。

豊かな自然に抱かれながら、歴史を大切にしていけることがこのまちの価値である。



～飯山まちづくりデザイン会議～